

令和元年 12 月 21 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 平成 31 年度 第 11 回

本年最後のフォーラムです。先ほど、岡本理事長が 1 年間を振り返って挨拶をされました。述の会や特別フォーラムなど、盛り沢山の内容でした。会員相互の融和を深める、個々の発信する場を設ける、という目標は間違いなく一歩進んだと感じますので、岡本新体制が順調に船出をしたと思えました。ご苦労様でした。

入るを図りて出ざるを制す

今朝の日経新聞を見ると、一面に、「来年度予算が 102 兆 6580 億円と過去最大を更新した」と大きく出ています。まずおかしいと思ったのは、見出しに収入が書いてありません。普通の家庭であれば御主人は奥様に、来年はこれくらい稼ぐだろうとは言うでしょうが、これだけ使うぞ！ とは言わないでしょう。よく見ると、消費税も含めて大あまの税収が 63 兆円と隅っこに書いてありました。使う金は大きく、入る金は小さく書く・・・おかしな印象を受けました。しかも、使い道について細かく分けてあるのですが、哲学がない。目先のものに対してお金をいくら使うかを出しているだけで、日本の国をどういうふうにしましょうという話がありません。ですからこれは、政府が発表したものをそのまま書いているだけ、政府が言いたくないものは付度して言わない、そういう見出しだと感じました。

中味を細かく見ると、使い道を細かく書いていますが、国のへそくりにも洗い浚い手を付けて目の前を何とかやり繰りしてしまおう、という印象を受けました。これを見て、私の母親を思い出しました。私の父は石屋でしたから、決まったお給料が決まった日に入るのではなく仕事をした分だけお金を貰うわけです。いつお金が入るか分からない不安定な家計を母親は切り盛りしていました。母親の場合は、これは何費、これは何費と細かく袋を作っておいて、お金を貰うとその中に振り分けるのです。そして、その枠の中で支払いをし、衝動買いはしないと決めていました。尚且つ、それとは別に大きくへそくりを貯めていました。それを元金に越谷に家を買ったのですが、その際、銀行からお金の出所を聞かれ、「これだけ生きてれば、これくらいのへそくりを貯めるのは当たり前だ」と啖呵を切っていた話を覚えています。

今の日本の国は哲学がなくなっているから、“入るを図り出ざるを制す”とは逆の、こう

いう無様な予算案を作ることになるのだと思います。

1年を振り返って・・・

では、恒例の質問に参ります。年末ですから今年一年でお考え下さい。

○ 1年間、良い日が続いたと思う方

念押ししますが、客観的に、良い事があった・悪い事があった・だからどうだったというのではありません。主観で、良いなと思うことがあれば、そのイメージだけを広げればよいのです。結果的に沢山手が挙げればよいなと思ってお聞きしています。

「一病息災」という言葉があります。病気と聞くとマイナスと思いますが、命ある限り、病気とは共生していくものだと思います。たとえ深刻な病状であっても、残された人生を最大限に生かして使おうと考える時間が与えられたと思えばよいのです。

○ 1年間、嘘を比較的つかなかった方

「比較的」とつけると、皆さん手が挙げられますね。

○ 1年間、有難うと言い、有難うと言われることが比較的多かった方

私の場合、今日は有難うと言われることが少なかったと思ったなら、自分でお茶を入れて、家内の目の前に「はい、どうぞ」と置きます。そうすると「有難うございます」となる。有難うと言われるには、それなりのコツがありますね。どういう場合でも、有難うと言われると気持ちが良いものです。

○ 今年1年間、健康法を実践した方

私は今朝6時半頃に家を出て、30分ほど自転車で走っています。

○ 今年1年間、仕事を通じて、或いは日常生活の中で自分磨きをしたと実感のある方

○ 昨晚、明日以降のことをイメージして寝た方

前からお願いしておりましたが、どなたかに発表していただきましょう。

(林理事・神藤評議員発表)

・・・有難うございました。ポイントは具体的にイメージすることです。神藤さんの場合は、仕事がうまく終わって良かったな…と晩酌をしながら、“ああ美味かった”と過去形で思えるかどうかです。林さんの場合は、こういうふうに分取りができたというのでは少し足りません。分取りどおりに終わって、成功したという実感があつたら寝るとというのがポイントです。

託きて以て直と為す者

では、論語の視点に参ります。本日は陽貨篇 24～26 です。

【二十四】子貢曰く、君子も亦悪むこと有るか。子曰く、悪むこと有り。人の悪を称する者を悪み、下流に居て上を誦る者を悪み、勇にして礼無き者を悪み、果敢にして窒がる者を悪む。曰く、賜や亦悪むこと有るか。徹いて以て知と為す者を悪み、不孫にして以て勇と為す者を悪み、訐きて以て直と為す者を悪む。

孔子と弟子の子貢とのやり取りです。人を憎むことがあるか…、孔子が答えた内容と子貢が答えたものとは違っています。その違いの対比を味わいながら読むとよろしいでしょう。

子貢が質問しました。「孔先生も人を憎むことがありますか。」

孔子が答えました。「もちろんあるぞ。他人の悪事をあげつらう者を憎み、下位層にいて上のものを悪く言う者を憎み、血気にはやり礼儀をわきまえない者や、頑固で譲らない者を憎む。子貢、お前はどうかね」

子貢が答えました。「他人の意見を盗んで、知ったかぶりをする人を憎みます。傲慢を勇氣と思っている人や、人の隠し事をあばいて自分は正直だと言う人を憎みます。」

「訐きて以て直と為す者」という部分で、嘘をキーワードにして考えます。

先ほどの新聞記事を見ても、国の根幹で嘘をつき続けていると思います。国の予算を組む際、予算を要請する側は嘘に嘘を重ねて膨らましたものを請求する。それに対して切り込んで少しずつ圧縮するようには見えるけれども、根幹の所が違うので、どうしても小手先細工になって、メスを入れねばならない部分にはメスを入れずに、結果として金額が膨れ上がってしまう。結果、自己弁護のために「これだけお金がかかるのだ」と大変な方ばかりを先に国民に言ってしまっ、収入はそっと隠しながら言う。そういう言い方になっています。これは何が原因かと考えると、哲学が貧困だからです。縦の学問が今の国会議員に欠けている、特に政権を担っている人たちに足りないからだと思っています。

干支学から令和2年をみる

来年は庚子（かのえね）です。来年1月発行の季刊誌「知足」にも書きましたが、「庚」は三つ意味があつて、第一は継続、第二は償う、第三は更新です。「子」は広がる。ですから「庚子」は、新しいものが生まれて一気に広がっていくという意味になります。

干支学は60年周期で考えます。60年前の日本は、誰が火をつけたわけでもないのに何故か暴力が吹き荒れた時代でした。昭和35年6月には、全学連4000人が国会突入をはかり警官隊と衝突、東大生の樺美智子が圧死しました。10月には社会党の浅沼委員長が刺殺さ

れました。来年も訳が分からないまま、何か今までにないものが広がり吹き荒れるであろうと思っています。

詳しく見てみましょう。

継続・・・安倍政権は来年、継続はするでしょうが、追い込まれて途中で辞めざるを得なくなる。小手先のつぎはぎだらけでやってきたものが、どうにもならなくなってくるのが露呈する時期です。自公体制は継続をするでしょうが、安倍政権は力を失って見限られる。そういう年回りになると思っています。

償う・・・今回の予算を見てもばら撒き予算で、表面にはパラパラ撒くけれども根っこの部分にメスを入れないので、本当に生きたお金の使い方をしていません。前回は申しましたが、私は以前、大地震から復興したという北海道の奥尻島に行きました。確かに公共施設は素晴らしいものが沢山出来ていましたが、島民、特に若い人達は島から出てしまって人口が激減し、使われていない建物だけが残っている有り様でした。3.11の復興にしても目先の小手先だけしか復興予算が使われていません。汚染地域では補償の対象者に支援金が配られましたが、使い道が分からないものだから身を持ち崩す人が増えたと聞きます。指導をせずしてばら撒いているだけ、人気取りをしているだけです。

来年は、それらのつけがまわって償いをせねばならない年回りです。会社や組織、個人や家庭で考えると、とんでもない事件・事故が起きて、本来なら責任を負わないでもよいと思うようなものでも、責任を取らされる。とんでもないトラブルに遭って、償いをせねばならぬ年回りになる可能性が高いとお考え下さい。ですから、トラブルを処理し償いをするための費用もみておかねばならないでしょう。

更新・・・これは、保険の更新をするというような意味ではなく、今までにないものが新たに生まれ、みるみるうちに広がっていくと捉えます。例えば、スマホが一瞬にして世の中に広まったのと同じように、リブラのような仮想通貨の新しいものが生まれて世界中に一気に広がっていくのではないかと思っています。

一つの例で、オリンピックを前に今、都内ではオリンピック仕様デザインのタクシーが増えています。こういうものは政府が意識して増やそうとしています。また、東南アジアでは、オートバイの後ろに人を乗せて走るバイクタクシーが増えています。渋滞をぬって走ることが出来るし、スマホで呼び出しも出来るということで一気に広がっています。

このように一般の人たちが便利だと感じるものが一気に広がっていく、そういう年回りになると思っています。これは「更新」が「子」の「広がる・新しい」という意味に繋がっています。予想もしなかったサービス、新しいビジネスが生まれて、それが一気に広が

っていくでしょう。60年前は安保反対という一色に塗りつぶされ、暴力が日本国中を覆い尽くしました。それと同じような現象が来年は起きる可能性が高いと思っています。

日本の底力

来年は、本物の新しい時代とは言えないけれども、間違いなく変わった形態になると考えています。そして、日本人が自信を持ってくる時代になるであろうと思っています。その核心は、日本民族のものの考え方です。中斎塾フォーラムの基本理念でもある「足るを知る」、「ほどほど」「おかげさまで」「もったいない」・・・これらの考え方を踏まえて、日本人の心が自信を持ち始めると考えています。

日本が他の国々から見て素晴らしいと思われる最大のものは、天皇制です。血筋が綿々と続いている、これだけの歴史を持った国は他にありません。天皇陛下の存在は、日本人が考えるよりはるかに大きな影響を世界各国に与えていると思っています。

次に、日本民族の特徴として、外国の文化を取り入れて咀嚼し、日本独自の文化に作り変え後世に伝えています。こういう能力を持った国はなかなかありません。それが一番分かるのは日本語です。我々は論語を読んでいます、論語はいわば古代中国語です。ですから今の中国の人たちは、論語をそのまま読めません。これを日本人は読めるように直してしまっただけですから、これは凄い力です。日本人は他の国の言語を飲み込んで、咀嚼し、日本語の中に新しい言葉を作り出しました。外国語で入ってきたものを片仮名で表現し、それがいつの間にか平仮名や漢字に変わっていく。これが日本語の特性です。日本語の特性をよく考えてみると、日本民族の特徴が表れてくると思います。仏教やキリスト教も然りで、日本人は他の国の宗教を受け入れて、咀嚼して、我がものとなしている。しかも、仏教であればインドが発祥で中国を通過して日本に入り、日本で花が開いています。そういう能力を持った民族だからこそ、日本人はこれからの世界の国々をリードしていくポジションに立っていると思わざるを得ません。

更に、日本の国を形作っている国土が考えられます。日本は島国ですから周囲を海で囲まれています。日本の領土である海底には大変な資源が眠っています。燃える氷と言われるメタンハイドレートは、金額にすると120兆円とも言われています。また、レアアースは、世界のレアアース生産の大半を担っている中国の量よりもはるかに多く、一説では燃料電池2400年分とも言われているそうです。今、中国が日本海域に盛んに進出しているのは、それを狙っているという話もあります。

また、日本の国土は70%以上を森林が占めています。降った雨は森林が受け止めています。森林の力、それによって生まれる水の力、それから周りの海・・・そういった水の力に恵

まれている日本は、水処理技術も非常に優秀です。このように日本には貴重な資源が沢山ある、尚且つそれらを活かす優れた技術も持っている。これが、世界各国からみた日本です。

ですから来年以降は、日本人が自分の国に対して自信を持つようになる。そして日本民族が素晴らしい能力を発揮していくようになるでしょう。日本の底力を見せびらかすのではなく、日本人の行うことを見て他の国々が真似をするような、自然と感化をしていくような流れが生まれ、増えていくと思っています。

最後に、これから気にしなければならない国を申します。

アメリカは前から申し上げているように、国としての力が落ちているから、だんだん普通の国になっていきます。その落ちていくスピードは加速度的に早くなって、一気に落ちていく状況になると思います。

ロシアはソ連邦をもう一度復活させたいと必死になっているようですが、肝心の油が力を持たなくなってきました。ですから一時的に復活をしたとしても、そう長くはないでしょう。したがってアメリカに変わって世界をリードすることは無理だと思います。

中国は今が頂点で、これ以上は無理だと思います。一帯一路なるものでアメリカと対峙して世界をリードしていきたいわけですが、もう、人の数がどんどん減っています。全体的な人口はありますが、貧富の差が酷すぎます。ですから今のような状況が続くことはあり得ないと思っています。

ヨーロッパはどうか。イギリスが自主独立路線に行きましたので、EUもどんどん落ちていくでしょう。

今まで世界の国々が進んできた共産主義・資本主義はもう終わりです。通貨も終わりです。今は、仮想通貨の時代に入っているのだと思います。そして、仮想通貨はそう長くは続かないでしょう。そうなると、その先は何になるのか・・・今は、まだ分かりません。ただ、現在の仮想通貨を支えているコンピュータの技術も、想像できないくらい高いレベルのものが生まれたという話を聞きました。真偽のほどは分かりませんが、放射能を無力化する研究が完成したという話も出てきています。

ですから来年以降は、第三次世界大戦が始まるかどうかという動きと、歴史上最大の変革が起きる初年度になるのではないかと、そういう感覚を持っています。これは50年、100年単位で見ての話になります。

そう考えると、先々どの国を気にしていた方がよいか。北朝鮮はやはり気にした方がよ

と思っています。何故かというと、レアアースなど物理的な資源が沢山あるということと、ブロックチェーン技術では最先端を行っているようです。これは世界をリードする可能性が大です。他に気になるのは、サウジアラビアでは国土の60%を占める砂漠の砂をエネルギーに変えるという技術が現実化してきているようです。更に、イスラエルはIT大国で、セキュリティ技術に関して最先端に行くようです。

ということで、日本人が気づかない部分で世界各国、特に日本人が気にしていない国々が、とんでもない能力を身につけ始めて来ています。そういった国々に対しても日本は、先ほどお話したように、日本民族のものの考え方を無理やり押し付けるのではなく、良いと思ったならどうぞ真似してくださいという形で友好的なお付き合いをしていけば良いと思います。例えば、台湾やイランは日本に対してとても親近感を持っています。昨日、イランのロウハニ大統領が来日し、安倍首相と会談をしました。アメリカとイランの仲介役として日本としてはこういう動きをしますと伝えて、信頼関係を確認したという記事が今朝の新聞に出ていました。おそらく安倍さんは、どこまで意識しているかわかりませんが、日本民族がこれから素晴らしい能力を発揮する下準備をしてくれているのだと思います。

来年は、そういう色々な準備を踏まえて大きく変わっていく年になる。したがって自分自身でやるべきことは、とんでもない大きな事件・トラブルが起きた時、自分で自分の身を守る、家族や組織を守るためにはどうするかを考えて本氣になって実行しなければいけません。成功すれば素晴らしい方向に進むし、失敗すれば一気に滅亡する、かなり際どい年です。そういう境目ですから、相当腰を据えて動く状況になります。日本民族の岐路になるのが来年ではないかと思っています。